

特別支援教育コーディネーターの専門性向上に関する実践的検討

研究の背景 —特別支援教育コーディネーターの現状—

- 必置** 全公立学校に特別支援教育コーディネーターが配置
- 役割** 保護者に対する学校の窓口、校内での調整や研修、外部の関係機関（福祉、医療等）との連絡調整
- 課題** すべての特別支援教育コーディネーターが高い専門性や最新の知識・技能を有していない
- 施策** 道教委では、施策項目2「特別支援教育の充実」として、高い専門性に基づく特別支援教育の推進を掲げている

研究課題

- 道内公立学校に置かれている特別支援教育コーディネーターの業務内容、および専門性についての実態を調査することで、専門性向上を行う際のニーズを知り、有効な研修やコンサルテーション実施につなげる。
- 知能検査や心理検査を組み合わせた包括アセスメント研修を実施することでアセスメント力強化を図る。
- 個別の教育支援計画作成・活用に関する研修を行い、エビデンスに基づいた支援法をみにつける。
- コーディネーターに対して、zoom等を用いた遠隔での支援や訪問による支援などでコンサルテーションを実施し、実践的専門性の向上を図る。

研究目的

- ① 道内公立学校の特別支援教育コーディネーターの専門性と支援ニーズの実態を調査
 - ② 北海道教育大学の各キャンパスの特別支援担当教員による必要な専門知識や技能等の向上のため支援ニーズに沿った研修
特に知能検査、心理検査を組み合わせた包括アセスメント研修と個別の教育支援計画の作成・活用、最新知見の提供
 - ③ 特別支援教育コーディネーターに対するコンサルテーションの実施
- ➡ コーディネーターの専門性の向上を図る

研究実施計画

- <令和4年度>
- ・道教委の担当者との打ち合わせ
 - ・調査に向けての調査内容の策定
 - ・倫理審査委員会への申請
 - ・調査（WEBによる調査も検討）
- ※調査は主として全道小中学校に質問紙調査

- <令和5年度～8年度>
- ① 包括アセスメントを含めた研修
 - ② コンサルテーションの実施
 - ③ 「ほくとくネット」の活用による情報発信
- ※道教委を通して応募があった研修ニーズの高い学校に対して、重点的に実施

本研究実施により得られる研究成果

- ✓ 特別支援教育コーディネーターの実態およびニーズをすることで、的確な専門性向上のための研修計画が策定することができる
- ✓ 特別支援教育コーディネーターのアセスメント力が向上し、的確な支援ニーズの把握につながる
- ✓ エビデンスに基づく支援計画の作成が可能となる
- ✓ 学校内における特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する的確な助言・指導が可能となる
- ✓ 校内研修などによる、校内の教員の専門性を底上げすることができる
- ✓ 地域の「リーダー教員」として、他校の特別支援教育コーディネーターへの指導やコンサルテーションの実施が可能となる
- ✓ 地域全体の特別支援教育の専門性向上につながる

研究実施体制

- 代表
片桐 正敏(本学旭川校・教授)
(研究総括, 調査の実施, アセスメント研修, コンサルテーション等を担当)
- 分担者
- ・萩原 拓(本学旭川校・教授)
 - ・蔦森 英史(本学旭川校・准教授)
 - ・五十嵐 靖夫(本学函館校・教授)
 - ・北村 博幸(本学函館校・教授)
 - ・細谷 一博(本学函館校・教授)
 - ・小野川 文子(本学釧路校・教授)
 - ・小淵 隆司(本学釧路校・教授)
 - ・田中雅子(本学釧路校・准教授)
 - ・戸田 竜也(本学釧路校・准教授)